

平成 23 年 度

# 事 業 計 画 書

(変 更)

平成 23 年 11 月 1 日

財団法人 馬事文化財団

# 目 次

I	根岸競馬記念公苑における事業	1
1	馬の博物館の事業	1
(1)	馬に関する資料の収集、保管	1
(2)	馬に関する博物資料の展示	1
(3)	馬に関する博物資料の調査、研究	2
(4)	出版事業	2
(5)	普及事業その他博物館としての活動	2
(6)	研究交流・館外協力及び研修等	3
2	馬展示事業	3
(1)	馬等の展示	3
(2)	馬による体験学習	3
(3)	イベント(春・秋)の開催と協力	4
(4)	展示馬及び厩舎管理等	4
3	公苑の管理	4
4	馬文化の保存	4
II	J R A 競馬博物館における事業	5
(1)	競馬に関する資料の調査、収集、保管、展示	5
(2)	競馬に関する博物資料の展示	5
(3)	館内の案内	5
(4)	移動展及び他団体主催展示への協力	5
III	競馬振興会館 (Gate J.) における事業	6
IV	広 報	6
V	J R A 賞馬事文化賞候補作品の情報収集	6

# 平成 23 年度 事業 計 画 〈変更〉

平成 23 年 11 月 1 日一部改正

平成 23 年度の事業については、当財団寄附行為第 3 条の目的を達成することはもとより、根岸競馬記念公苑 馬の博物館においては、博物館法による登録博物館として馬に関する学術や文化の発展に寄与し、人々の新たな価値の創造を助け、社会に貢献します。また、J R A 競馬博物館及び競馬振興会館（Gate J.）においては、競馬の健全な発展に寄与するため、事業遂行に万全を期することとします。

## I 根岸競馬記念公苑における事業

### 1 馬の博物館の事業

#### (1) 馬に関する資料の収集、保管

馬に関する博物資料や情報の収集及びこれらの維持、保管業務を行います。また、収集した博物資料については「博物資料管理システム」に文字と画像情報を逐次入力し、情報の充実化と効率的な管理を図ります。

博物資料の保管にあたっては、文化財保護の基本的観点から、保存環境を整え、将来への継承に備えます。

#### (2) 馬に関する博物資料の展示

蓄積した馬事博物資料を、最良の状態で、さまざまに工夫をして展示し、多くの人々が理解できるように努めます。

春季は特別展示として『神田日勝～馬と歩んだ画業～（仮称）』を開催します。神田日勝は、北辺の開拓地で厳しい肉体労働に従事しながら制作し続け、32 歳で夭逝した洋画家です。日勝は、常に身近にあるものを題材に選び、中でも幼い頃から役畜として身近な存在であった馬（農耕馬）を多く描きました。本展では、画家の第一歩として踏み出した「瘦馬」から、絶筆となった「半身馬」まで日勝が生涯に渡り描き続けた“馬”作品を中心に展示します。

秋季は企画展示として『ススメ！小田原北条氏（仮称）』を開催します。北条早雲を初代とする後北条氏の資料は、合戦や城郭だけでなく、交通制度についても多く確認されています。そこで本展は戦国時代に宿場へ発した命令書、城下町に関する絵画、当時の馬具などを展示し、日本古来の馬文化の一端を解説します。

テーマ展示については、『没年 150 年・国芳 VS 没年 100 周年・周延展』『創立 30 周年・競馬学校展』『文様に見る馬の工芸品展』『創設 30 年・ジャパンカップ展』など、年間を通して歴史、民俗、美術、

自然、競馬各分野のテーマを設けて展示を行います。

常設展示については、来館者が馬のすべてを理解することができるよう、収蔵品を活用して基礎的な展示の充実を図ります。

なお、馬事文化の普及と、より多くの見学者のさらに高度な関心にも応え、一層の入館者増を期して、展示内容の理解の助けとなるような図録・リーフレットの制作を企画いたします。周知については、特別展示等にあわせて、報道機関等へ可能な手段を最大限に利用したアピール活動に努めます。

### (3) 馬に関する博物資料の調査、研究

馬と馬文化について、自然科学(進化・品種等)、人文・社会科学(歴史、考古、民俗、美術工芸、馬術、競馬等)の各分野において、広く文献・聞取・実地調査にとりくみ、調査結果に基づいた研究を行います。

「馬文化に係わる調査」においては、NHKドラマ「坂の上の雲」放映に伴い、秋山好古に関する調査を行うほか、馬事文化・馬事博物資料についての調査及び撮影を行い、基礎的な資料として収集、保存し、蓄積した情報を、特別展示等の企画で活用します。

### (4) 出版事業

馬と馬文化についての理解を広めるため、印刷物を刊行・配布します。

- ① 特別展示にあわせ、展示内容を中心とした図録を制作します。
- ② 馬事文化・馬事博物資料に関する調査、研究その他の活動の成果は『馬の博物館研究紀要』あるいは「小冊子」等において発表します。
- ③ 刊行物は、全国主要博物館、美術館、図書館、大学、日本中央競馬会事業所・関連団体等に配布します。

### (5) 普及事業 その他博物館としての活動

学校教育・生涯教育の分野での期待に応える活動を展開、遠足・団体見学等の様々な機会をとらえて馬についての知識と理解を広めるとともに、馬事文化についての自発的な学習を支援し、その普及の拠点となるように努めます。

- ① 特別展示などに即して各種講座・講演会を企画いたします。
- ② 児童生徒に対し土曜日を無料入館日として来館を促進するとともに、学習素材の充実を図り、理解を促します。また、夏季休暇期間は相談コーナー、工作教室等を設けるなど教育普及の一助とします。
- ③ 学校教育と積極的に連携し、児童・生徒・学生の体験学習・生活学習の受入を推進します。特に地域の小中学校には、要請に応

じて臨機の活動を実施します。

- ④ 次世代の博物館を担う人材の育成のため、大学の学芸員課程の実習依頼に応じ、実習生を受け入れ、指導を行います。
  - ⑤ 生涯学習機関等の要請に応じ、馬及び競馬の歴史等について講演等を行い、普及に努めます。
  - ⑥ 各地の博物館・美術館をはじめ競馬関連機関・団体の希望に応じて講演等を実施し、馬事文化に重点を置いた理解の向上を図ります。
  - ⑦ 装蹄教育センターなどの競馬関連機関、獣医大学・動物看護関係など馬に関係する学校・団体などの見学に際し、展示室案内とともに講義・質問も実施し授業の一助となるよう協力します。
- (6) 研究交流・館外協力及び研修等
- ① 調査研究活動の成果を以って広く学術一般に貢献するとともに、さらなる進展を期し、学会・研究プロジェクト等に参加、研究交流を行います。
  - ② 馬と馬文化にかかわる他の博物館の展示・出版・映像等の企画について協力し、各種企画の向上に寄与することを目指します。
  - ③ 博物館運営の向上のため、日本博物館協会、神奈川県博物館協会及び東海地区博物館連絡協議会の行う会議、研究会、専門部会に参加し、各地の博物館、教育機関との交流を通じて資料の相互活用及び情報交換を行います。

## 2 馬展示事業

### (1) 馬等の展示

身近に接し見ることができない馬という動物を博物館活動の一環として、実馬展示等を実施します。

#### ① 馬の展示

多品種の馬を繋養し、正面芝生広場及び運動馬場での放牧や騎乗等の他、日常の飼養管理の様子を紹介します。

#### ② その他の展示

馬に関する学習パネル、馬具、馬用農機具等を展示し馬事知識の普及に努めます。

### (2) 馬による体験学習

児童並びに成人の者に対し馬事普及活動の一環として、展示馬等を活用して、馬とはどういう動物なのかという知識と、動物愛護の精神を涵養することを目的に、以下の体験学習を実施します。

#### ① 乗馬デーの開催

入館者を対象とする試乗体験乗馬及び馬車の試乗会を、年間を

通じて行います。

② 体験教室・馬学講座の開催

小学校高学年を対象に、馬に関する基礎知識の学習や馬房の清掃、試乗、馬の手入れ等を行う『体験教室』を、開催します。

また、成人を対象に馬学の講義、馬の手入れ、厩舎作業等の体験学習の他、競馬場にて競馬博物館見学や競馬観戦を行う『馬学講座』を開催します。

③ にんじんタイムの開催

にんじんを自ら与えながら馬に触れ、親しめる機会と癒しの場を提供します。

④ その他、随時希望者に対し馬に親しむ機会を設けます。

(3) イベント（春・秋）の開催と協力

馬の博物館主催でイベントを開催いたします。また、展示馬を活用して他団体が実施するイベントに協力し、馬事文化普及事業に努めます。

① 主催イベント

春季は『馬とあそぼうこどもの日』、秋季には『馬とのつどい2011』を開催します。このイベントでは、日本中央競馬会馬事公苑等の協力を得て、ポニーの演技や障害飛越・馬場馬術の供覧等を行います。

② 他団体へのイベント協力

日本中央競馬会をはじめ他団体のイベントに展示馬を派遣する等、積極的に協力します。

(4) 展示馬及び厩舎管理等

展示馬の健康管理及び事故防止に万全を期すとともに、厩舎内外の公衆衛生並びに美観の保持に積極的に努めます。

3 公苑の管理

種々の草花や樹木を整備し、自然環境保持に努めた結果、小鳥や昆虫も多く生息している当公苑は、近隣の児童・生徒等の教育や、自然を楽しむ人々の生涯学習の場として、また、来苑者の憩いの場としても広く利用されております。この安全かつ良好な環境を引き続き維持するために日常の管理に努めます。

4 馬文化の保存

馬にちなんだ日本の伝統行事や祭事の保存・振興及び国内8馬種の在来馬を保存するために行う事業に対し、それぞれ助成金を交付します。

## II J R A 競馬博物館における事業

### (1) 競馬に関する資料の調査、収集、保管、展示

競馬に関する国内外の資料を調査し、体系的に収集・保管、展示することにより、文化的価値の高い競馬博物館運営を図ります。

### (2) 競馬に関する博物資料の展示

ギャラリー展として、春季には、第 71 回オークスの歴史的同着にちなんで、同着や僅差の決着となった平成以降の G I レースを中心に特集した春季特別展『平成の大接戦（仮称）』を、秋季には、秋季特別展『開館 20 周年記念・思い出の名勝負（仮称）』と題して、J R A 競馬博物館の 20 年のあゆみにも触れつつ、この 20 年間の記憶に残るレースを軸とした展示を行います。また、英国ダービーを描いた版画を展示し、20 年間にわたる資料収集の成果の一端を示す『英国ダービー版画展（仮称）』を夏季に、競馬写真家による『第 9 回ホースフォトグラフ展（仮称）』を冬季に実施します。

テーマ展としては、初春恒例の『2010 年度 J R A 賞展』を、続いて、ターフに色あざやかに誇りを示す馬主服を展示する『ターフを彩る勝負服（仮称）』を、3 月～10 月上旬、10 月中旬～平成 24 年 2 月の二期にわけて開催します。

エントランスホールでは『2011 年度新人騎手紹介展（仮称）』『第 78 回日本ダービー展（仮称）』『第 31 回ジャパンカップ展（仮称）』を実施します。

あわせて、入館者に対して展示の理解促進を図るため、適宜、配布用印刷物の作成やビデオ映像等の制作をいたします。この他、新顕彰馬・引退騎手・引退馬・三冠馬等があった場合は、随時展示を行います。

### (3) 館内の案内

来館者に競馬の魅力を感じとってもらえるように、展示物や競馬に関する知識等を習得したインストラクターを配置し、館内の案内や利用上の説明等に努めます。なお、体験機器については、安全かつ円滑な運用を図ります。

### (4) 移動展及び他団体主催展示への協力

日本中央競馬会及び競馬関連団体等の要請により、競馬に関する移動展を実施します。また、J R A 競馬博物館での共催、その他の施設において、他団体が主催する展示には、資料の貸出などの協力要請があった場合、積極的に協力いたします。

### Ⅲ 競馬振興会館（Gate J.）における事業

- (1) イベント等による競馬及び馬事に関する各種情報の能動的発信  
イベント・展示等を通じて競馬等の情報を発信し、関心の醸成と知識の普及を図ります。
- (2) 競馬振興会館内での定期的イベントの開催  
社会的にも関心が高いと思われるG I 競走開催週には、トークイベント等を開催し、競走の歴史的背景や、競走にまつわる多種多様な情報を提供して、広く一般国民に対し効果的に知識の普及を図ります。
- (3) 競馬等に関する各種映像の放映  
財団法人 競馬・農林水産情報衛星通信機構から配信される映像の他、競馬に関する映像等を放映することにより、競馬等の文化の普及に努めます。

### Ⅳ 広 報

馬の博物館とJ R A 競馬博物館及び競馬振興会館（Gate J.）の各種展示活動や行事内容を広く告知するため、各種配布物（ポスター・チラシ・パンフレット等）を活用し、近郊の公的機関・交通機関や競馬関連団体等と連携し、案内広報を行います。またホームページや新聞、雑誌及び競馬場内のターフビジョン・場内I T V映像等、さまざまな媒体を利用し、来館者の増加を図ります。特に競馬博物館については、開館 20 周年記念のイベントを通じて積極的なキャンペーンを心がけます。

財団ホームページについては、両博物館及び競馬振興会館（Gate J.）の展示やイベント情報等をすみやかに更新し公開していくとともに、より効率的に管理し、各施設の情報を発信していくための準備を進めていきます。

また、日本中央競馬会や他団体の催事等に協力し、P R に努めます。

### Ⅴ J R A 賞馬事文化賞候補作品の情報収集

日本中央競馬会から業務委託を受け、J R A 賞馬事文化賞にかかわる情報収集等の作業を行います。